

## 2020年度重点領域研究助成費実績報告書

2021年 3月 31日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	教授	氏名	坂野純子
研究課題	岡山の自然資源を活用した多世代交流拠点の創生：キャンパス内緑地における自然教育プログラムの開発					
研究期間	2019年度～2020年度					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	坂野純子	保健福祉学部・教授	精神保健学	総括	
	分担者	難波久美子 沖本克子 関根紳太郎 名越恵美 石井裕 デズリス・エリカ 澤田陽一 畠和宏 渡辺富夫	デザイン学部・教授 保健福祉学部・教授 保健福祉学部・教授 保健福祉学部・准教授 情報工学部・准教授 保健福祉学部・講師 保健福祉学部・助教 デザイン学部・助教 本部・副学長	天然素材デザイン 小児看護学 比較文化 がん看護学 身体的コミュニケーション 比較文化 認知心理学 建築計画 身体的コミュニケーション	プログラム開発 プログラム開発 プログラム開発 プログラム開発 プログラム開発 プログラム開発 プログラム開発 環境デザイン プログラム開発	
研究実績の概要	<p>従来、自然の不思議さや偉大さ、命や生き物を大切にしている感性などを自然とのふれあいから学んでいた。しかし、都市化、産業化により社会が変容した今日の日本において、都市部はもとより、農山村部ですら自然とのふれあいがめっきり減っていることが懸念されている。2002年から「総合的な学習の時間」が始まり、そのテーマとして、(1)国際理解(2)情報(3)環境(4)福祉(5)健康、が示されている。しかし、これまで、身近な自然を活用した「総合的な学習の時間」の取り組みの重要性は理解されていても「環境」をテーマとした取り組みは、なかなか実行に移しにくい状況にあるという指摘がある。</p> <p>さらに、わが国では、うつ病をはじめ、ストレス、メンタルヘルス対策が緊急な課題である。本研究ではスウェーデンのスコーネ県で自然を活用し病気欠勤対策として目覚ましい成果をあげている研究に着眼し、そのプログラム開発者である国立スウェーデン農業科学大学のパトリック・グラン教授と2014年より開始した学術交流を基盤としている。本研究では、岡山の豊かな自然を「資源」として多角的に捉えて領域横断しながらディスカッションを重ねる一方で、学生及び多様な市民の健康増進、教育等へ活用するために実践的なプログラムを開発し、その効果を科学的に検証することをねらいとしている。</p> <p>本年度は、新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら、「季節のリースづくり」、社会参加プログラム「自然を感じるコンサート」を実施した。</p>					

※ 次ページに続く

参加者の評価：アンケートの結果、スヌーズレン歌声広場では 27 名（大人 6 名 子ども 21 名）の参加があり、「スヌーズレンをみて疲れ切った心が癒されました。新型コロナ・ウィルス感染症対策でなかなかイベントに参加できず少し寂しかったですが、今日は歌をうたったりしてクリスマス気分を味わうことができました。ありがとうございました」等、また、自然を感じるコンサートでは 35 名（大人 21 名 子ども 14 名）の参加があり、「コロナでコンサートに全くいけない中、ピアノやバイオリン、チェロなどの木製のキレイな生の音が聴けてとても楽しかったです。また開催することがありましたら、ぜひ参加したいです」等、こういった状況下においてこそ、メンタルヘルスにとって有用性の高いプログラムが求められていることが明らかとなった。

研究実績  
の概要



成果資料目録